

---

# コロコロキック

夏山 僕

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

コロコロキック

### 【コード】

N9339N

### 【作者名】

夏山 僕

### 【あらすじ】

僕が、思いついた新たなコロコロキックについて……。

最近新しいスポーツを僕は開発した。  
それはコロコロキックという競技だ。  
コロコロPKじゃなくて、コロコロキック。

難しいルールとかは全くない。

無神経に目の前を横切っていく、コロコロを、ただ、思いきり蹴っ  
飛ばす。

それが、コロコロキックだ。

コロコロというのはもちろん、キャスター付きキャリアバッグの通  
称だ。

ターゲット（コロコロ）は、どれでもいいというわけではない。  
あくまで「無神経に僕の目の前に現れた」コロコロだ。

とくに通勤ラッシュ時などにコロコロをひきずっている人は、  
僕のターゲットになりやすい。

前の人に当たらないように歩くのがやっと、というような状態の時  
に、人の目の前を 斜めにコロコロとともに横切っていく。

コロコロを後ろに引きずる様は、まるで、ドラクエ4の馬車だ。

パトリアと馬車。要するに、2キャラ分のスペースを使っている  
わけだ。

毒の沼地にでも、入ってしまえ。

僕がそんなふうにしてしまうのは内緒の方向だが、

2キャラ分使って歩いているということは

、電車の座席で2キャラ分足を広げて座っている、DQN君と同等  
だ。

決して、コロコロを引きずっている人全員が悪いと言っているわけではない。  
2キャラ分、もしくは、3キャラ分使って歩いている人が邪魔だということだ。

話は逸れたが、僕はそういった、コロコロが目の前を横切ってぶつかりそうになった時に、必殺コロコロキックを発動する。

大空翼よろしく、右足を一旦後ろに大きく振り上げ、  
思うがままに、振り抜く。

僕の足の餌食となったバツグは、華麗に空を舞い、

あるときは雨上がりの空に突如現れる虹のように、綺麗な弧を描き、

またあるときは、ウイニングザレインボーを喰らった相手のように、  
真上に飛び、

さらに感涙にも値するのは、夏の夜空を華々しく彩る花火のように、  
空中で開花する。

僕の足技によって、それは、見物料でも取りたくなるくらい、綺麗な物に生まれ変わる。

前世は、ただの馬車だったのに。

そうしてコロコロキックを決めた僕は、その後両手を真横に広げて、  
手首から先を真上に向けて、バツグが飛んでいった方向の逆に、猛  
ダッシュする。

キーーーーーンと声をあげながら。

コロコロキックを決められちゃった人かというと、たいていは、  
僕を追いかけようとしたり、バツグを追いかけようとしたりで、ま  
るで反復横飛びをしているような動きをする。

その様子を遠くから見た僕は必ずあの人の決め台詞を呟いてしまう。

「実におもしろい。」

そうして、日々僕がコロコロキックをしているせいか、僕が電車に乗る時間帯にはコロコロを引きずる人が減ってきた気がする。

この調子で自分勝手なコロラーは、世の中から消えていけばいいんだ。

なんて、のんきに考えている僕にも悩みがある。

それは、ヘビィでハードな、長期旅行用コロコロの存在だ。

あれに向かってコロコロキックを繰り返すと、3か月ぐらいは松葉杖生活になっていしまう。

松葉杖生活は案外楽しいから、苦ではないが、その間コロコロキックが出来ないせいで、

フラストレーションがたまってしまつのだ。

そんな時、無神経なコロコロが僕の前を横切るものなら

堪える僕。今は我慢の時だ。

これを持ち越えたとき、僕はまた、一回り大きくなれるはずだ。

いや、絶対ビッグになってやる！

と僕は思うのだ。

そして、いつかAちゃんとまでは言わなくても、ビッグな男になつて、

空港とかにある、超でっかいコロコロをキックして、勝利の虹を描いてやる。と僕は心に誓うのであった。

コロコロキック・・・。

オリンピックの正式種目にならないかなあ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9339n/>

---

コロコロキック

2010年10月10日05時41分発行